

北東アジア青少年環境活動リーダー育成事業2022

北東アジア地域の青少年を対象に、環境問題に関する意見交換や環境保全活動を通じて相互の友好と理解を促進し、グローバルな視点で地域の環境保全に取り組む人材を育成することを目的に実施した。

1 実施日時

2022年8月8日(月)、9日(火) 両日とも13:30～16:00

2 実施方法

オンライン形式 (Zoom)

3 主催等

- ・ 主催：忠清南道（韓国）、富山県
- ・ 主管：公益財団法人環日本海環境協力センター

4 参加者

北東アジア地域の中高生57名（5か国9自治体）

- ・ 中 国：8名(山西省8名)
- ・ 日 本：11名(富山県11名：大門高校から5名、富山国際大学附属高校から6名参加)
- ・ 韓 国：5名（忠清南道5名）
- ・ モンゴル：12名（ダルハン・オール県7名、ドンドゴビ県5名）
- ・ ロシア：21名(アルタイ地方7名、沿海地方2名、ハバロフスク地方6名、トムスク州6名)

5 テーマ

生活の中で実践する環境保全(環境にやさしい消費、エネルギー節約など)

6 内容

※ [配布資料一式はこちら](#)

※ [ダイジェスト動画はこちら](#)

(1) 開会挨拶

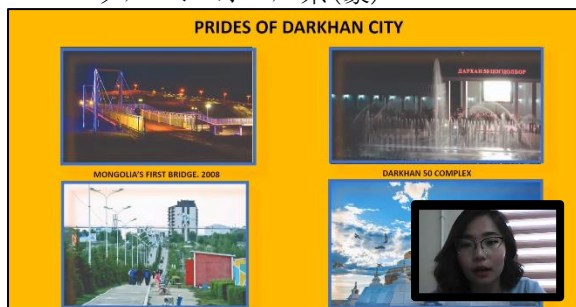
忠清南道 気候環境政策課長 イ・ヨンジョ 氏



(2) 文化交流

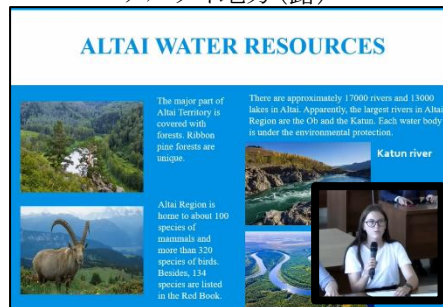
それぞれの地域の文化や風土を発表し、相互理解を深めた。

ダルハン・オール県(蒙)



人口や面積等の基本的な情報、地域の農業・畜産業、土地利用状況等について紹介

アルタイ地方(露)



様々な文化が混じっている地域であることや、農業・観光業が盛んであること、景勝地などについて紹介

※このほか、山西省（中）、富山県、忠清南道（韓）及びドンドゴビ県（蒙）が資料配布で文化・風土を紹介（発表はなし）

(3) 活動発表(各自治体のタイトルをクリックすると資料が表示されます。)

各自治体において参加生徒が実施している環境保全活動の内容を発表するとともに、意見交換を行った。

自治体・活動概要	タイトル
山西省（中） 環境にやさしい『自転車シェアリング』（レンタル共同利用）の利用促進に向けて、利用者の実態調査、自転車の清掃、利用方法の市民への案内、各組織・団体への利用呼びかけ等を実施。	Activity on low-carbon transportation
富山県（日） ※富山国際大学附属高校 ペットボトルキャップ及び使い捨てコンタクトレンズケースを回収し売却益を慈善団体へ寄付するほか、着なくなった服を回収し海外へ届けるプロジェクトへの参画などの取組みを紹介。	Various activities based on SGDs mindset

忠清南道（韓）

学校周辺を流れる天安川の汚濁状況を把握するため、COD測定を行い、水道水、ミネラルウォーター、洗剤を混ぜた水等と比較した結果を紹介。

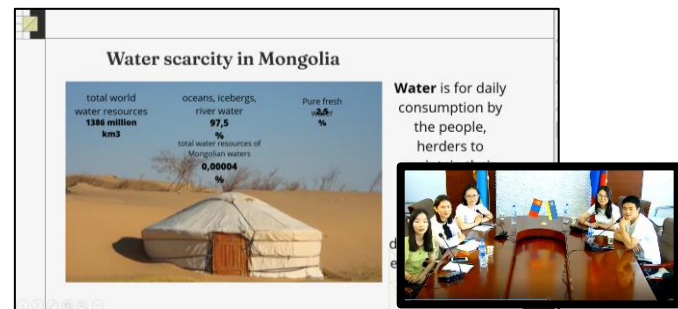
For the Earth For the Environment



ドンドゴビ県（蒙）

モンゴルにおける水不足の要因を調べるとともに、その解決策を考察。

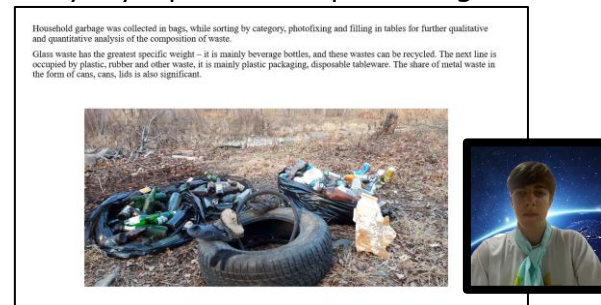
Water scarcity



沿海地方（露）

サクラソウが咲く河川堤防において人為起源の廃棄物（レジ袋、ペットボトル等）が多く見られたことから、清掃活動と組成分析を実施。

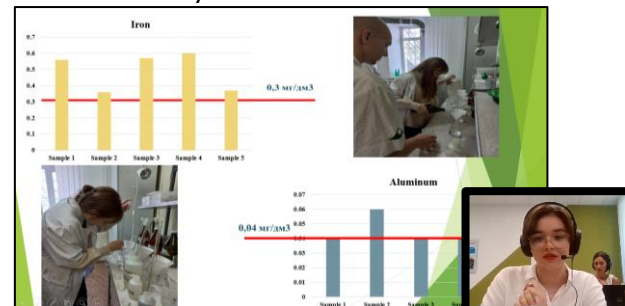
Monitoring of waste of artificial origin on the bank of the L. ozovoy Key in places where primroses grow

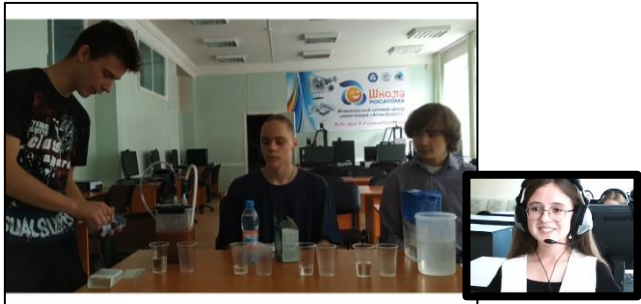


ハバロフスク地方（露）

参加生徒の生活圏の大気、河川水、土壌の汚染状況を調査。河川水は、多くの地点で鉄やマンガンの基準を超過。ポイ捨ての防止や植樹等により世界をよりよくすることが可能。

Study of the pollution degree of atmospheric air, water and soil in the city of Nikolaevsk-on-Amur



トムスク州（露） 井戸水を多く利用するこの地域において、鉄やマンガン等を浄化できる家庭用のフィルターの制作を行った結果、市販品と同等の性能で費用対効果が高いフィルターの制作に成功	Filter for water purification at home 
富山県（日） ※大門高校・資料配布のみ	Picking up garbage around the sea and shrine

(4) 環境クイズ

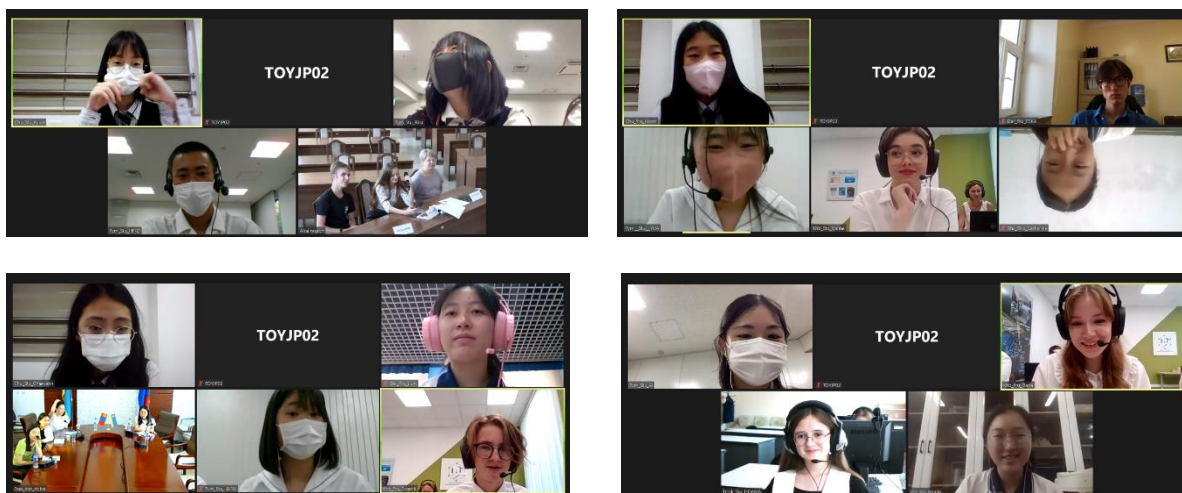
環境保全に関するクイズを通して、楽しみながら環境保全について学ぶとともに、参加者同士の交流を図った。



	Q1.	Q2.	Q3.	Q4.	Q5.	Q6.	Corrects
Shanxi	C	A	C	B	C	A	
Toyama	A	A	C	B	C	A	
Chungnam	B	A	C	B	C	A	0
Darkhan-Uul	C	A	C	B	C	A	
Dundgovi	A	A	C	B	C	A	
Altai	C	A	C	B	C	A	
Primorsky	C	A	C	B	C	A	
Khabarovsk	C	A	C	B	C	A	
Tomsk	C	A	C	B	C	A	
Correct answer	B	A	C	B	C	A	

(5) 自由交流

少人数のグループに分かれて、プログラム全体を通じた質疑応答、意見交換、異文化交流などの自由交流を行った。



(6) 体験活動

「新しく生まれ変わるごみ、ごみの再生」をテーマとして、自治体ごとにリサイクル・アップサイクル作品※を制作し、制作意図発表・意見交換を行った。

※リサイクル：使用したものを資源として再利用すること

アップサイクル：元のものよりも価値の高いものに生まれ変わらせること

自治体	作品及び制作意図
山西省（中）	 『長時間のハードワーク後の休憩に「ドリンクガラポン」と「ドリンクディスペンサー」』 生活の中で出た廃棄物を有益に利用することで、地球温暖化も抑える。ディスペンサーからは、本物のドリンクが出てくる。
富山県（日）	 『廃棄ペットボトルキャップを用いたアート「世界地図」』 使用した5色はオリンピックカラーで平和の象徴。今回参加した地域はオレンジ色で表現した。世界の環境がよりよくなるよう、環境を守りたいという思いを込めた。この制作のために集めたキャップはリサイクルし、服やカーペット等の新たな製品に生まれ変わる。

忠清南道
(韓)



『バナーを再利用した「ポーチ」「ドレス」』

街には広告用バナー（横断幕等）がたくさんあり、特に選挙期間が過ぎると、使わなくなったバナーがあふれる。耐水性もあり丈夫な素材でつくられたバナーを再利用した。

ダルハン・オ
ール県（蒙）



《左図》『段ボールを再利用した「リサイクル・ごみ箱」』

箸やストローはどこにでも共通して排出されるごみ。それらを分別して廃棄することができるよう工夫した。

《右図》

『プラスチックの飲料ボトルを再利用した「プラスチック製ペンケース」と「鳥の餌ステーション」』

- ・ ペンケースは、ペットボトルをジップ・ホットボンドでつなぎ合わせたもの。
- ・ 鳥の餌ステーションは、牛乳パックを切り取り、「Guasha」と呼ばれる絵具で色を付けたシンプルなもの。

ドンドゴビ県
(蒙)



『デニムパンツを用いた「ショッピングデニムバッグ」』

プラスチックは分解に1,000年もかかるので使うべきではない。デニムは素材の生産段階から決してエコと言えないが、だからこそ再利用した。

ストラップもデニムを編み込んだもの。飾りの花まで手作りしてこだわった。ミシンを用いたが、自分たちにとって作るのは難しくなく、苦労しなかった。

アルタイ地方
(露)



『木の棒やコルク、トイレットペーパーの芯などの材料を用いた「ステーションナリーボックス」』

多くのものが1回の使用で捨てられている。そのようなものに「2回目の命」を与える。

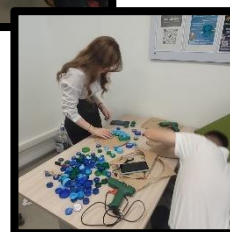
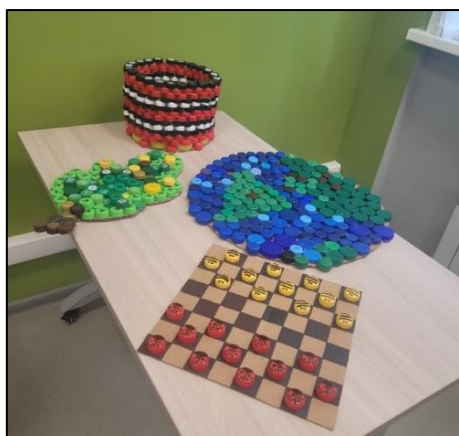
誰の家にもあるような廉価なものを利用すること、使えるもの・使いやすいものを作ることを心がけた。

沿海地方
(露)



『廃棄物を再利用した「プランター」と「スマホスタンド」』

ハバロフスク
地方 (露)



『廃棄プラスチックを様々な雑貨にリサイクル』

ロシアではリサイクルはまだそれほど行われていないので、プラスチックごみを再利用して、何か新しいものを作ろうと思い、これら作品の制作に至った。

マス目板 (段ボール) と黄・赤ペットボトルキャップで制作した作品は、ボードゲームとして遊ぶもの。

トムスク州
(露)



『缶を用いて作った「ペン立て」「花鉢」』

捨てられていた缶を集め、洗浄し、着色・飾り付けをした。廃棄物にはリサイクルできるものがある。

(7) 環境宣言

参加者代表（忠清南道）が「環境宣言文」を発表した。



北東アジア青少年環境活動リーダー育成事業2022 環境宣言文

我々は韓国、日本、中国、ロシア、モンゴルの5か国の代表として 2022年北東アジア青少年環境活動リーダー育成事業に参加しました。

“生活の中で実践する環境保全” というテーマのもと、環境に優しい消費の実践、生態系の保全など環境問題に関する意見交換や活動内容の共有を通じ、環境保全の重要性を実感することができました。

また、環境保全の重要性を理解し、私たちの生活が気候危機などの地球規模の問題と直接つながっていることに気づくとともに、環境問題を解決するために地域や国の枠を超えて世界中の合意と努力が必要であることを認識しました。

我々は、今後、北東アジア地域のすべての人々が快適な生活を楽しむ権利に加え、豊かな環境を保全する義務があることを知らせていきます。

さらに、北東アジア地域の環境保全のために自然を大切にし、各地域で環境保全活動に積極的に参加することを宣言します。

2022年8月9日

北東アジア青少年環境活動リーダー育成事業参加者一同

(8) 閉会挨拶

富山県生活環境文化部長 廣島 伸一

